

風土記の丘の花だより¹¹⁶

今、そしてこれから見られる植物(2021年12月25日)

いよいよ年末、来週はもう2022年、令和4年です。今年もご愛読いただきありがとうございます。さて、いよいよ紹介できる花がありません。こんな時は「花ない時のシダ頼み」、今回もシダからいきましょう。



古い木の幹や石垣にこんなものが生えているのをよく見かけます。ウラボシ科のノキシノブです。葉の裏に円い胞子のうが並んでいるので「裏星」です。うまく名付けていますね。昔は軒下や、詰まった雨樋などによく生えていました。ヤドリギのように幹の中に根を下ろさず、樹皮に着生するだけなので、木は弱りません。木は迷惑がっているかもしれませんが・・



ムラサキ科のハナイバナです。漢字で書くと「葉内花」です。花が葉の内側に付くのでこんな名前になったそうですが、そんな花はたくさんあるのに、どうしてこの花だけ「葉内」なのでしょう。花木園など、日当たりのいいところでたくさん咲いています。植物の勉強を始めたころは、キュウリグサとの区別が分かりませんでした。今見ると、全然違うのにね。



チチコグサのロゼットです。地面に張り付いて春を待ちます。でも中にはヒョロヒョロっと花を付けているのもありました。近くにはハハコグサのロゼットもありました。どちらも綿毛でふわふわしていますが、ハハコグサの方が葉の幅が広く、よりふわふわしています。どちらもキク科の植物です。



お客さんから「これは何ですか」とよく尋ねられますが、これは花でないどころか、植物ではありません。古い木の幹などに生える地衣類で、ウメノキゴケの仲間、マツゲゴケです。名前のとおり周りに黒いまつげのようなものが生えていますね。名前にコケと付くのでややこしいですが、地衣類はコケでもキノコでも、もちろんシダでもありません。この仲間は樹皮に何種

類も着いているので、ルーペで観察してください。では、よいお年を。 松下